

話し合い活動の手引き

§2 話し合い活動の指導の目安と流れ

(1) 発達の段階に即した話し合い活動の指導の目安

学級活動では、発達段階に応じた内容が示されました。

	求める人間関係	自主的・実践的な態度	重点をおくところ(例)
低学年	仲良く助け合おうとする人間関係	学級生活を楽しくする	周りの児童と仲良く助け合う、身近な人に親切にする、みんなのために働く など 規則正しい生活をする、自分勝手な行動をとらない、自分がやらなければならないことをしっかりやる
中学年	協力し合おうとする人間関係	楽しい学級生活をつくる	学級生活を楽しくする、互いに理解し合う、進んでみんなのために働く など よく考えて行動する、節度ある生活をする、やろうと決めたことは粘り強くやり遂げる、自分のよさに気付く など
高学年	信頼し支え合おうとする人間関係	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる	学校全体に目を向ける、身近な集団に積極的に参画する、自分の役割を自覚する、などより高い目標を持つ、自分の生活を見直す、くじけないで努力するなど

これを受けて、話し合い活動では、次のように指導の目安が示されています（特別活動指導資料）

《低学年》

教師が進行等の役割を受け持つことから始め、少しずつ児童ができるようにしていきます。また、友達の意見をよく聞いたり、約束に従って自分の意見を言えるようにしたりして、学級生活を楽しくするために集団決定ができるようにします。

《中学年》

教師の適切な指導の下に児童が活動計画を作成し、輪番制でどの児童も司会等の役割を果たすことができるようにします。また、理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる考えなどについてもしっかりと聞いて公平に判断したりして、楽しい学級生活をつくるために集団決定ができるようにします。

《高学年》

教師の助言を受けながら、児童自身が話し合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営できるようにします。

また、学級だけでなく、学校生活にまで目を向け、建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい集団決定ができるようにします。さらに、身に付けた合意形成する話し合いの知識や技能については、各教科の授業をはじめ、児童会やクラブ活動においても活用できるようにします。

(2) 発達の段階に即した話し合い活動のねらいと指導の目安（具体例）

そこで、各学年でのどのような指導のねらいをもっておけばいいのでしょうか。指導の目安の具体例とともにまとめてみました。

ねらい		指導のめやす
一 年	教師を中心に，学級内の問題をみんなで作成，話し合って解決する芽生えを育て，友達同士仲よく，楽しく学級生活がおくれるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・即時即場的な話し合いからスタート ・活動と話し合いを絡めていく ・指名は徐々に子どもができるようにしていく ・大きい声ではっきりと言う
二 年	学級内の問題を教師の力をかりながらみんなで話し合い，学級集団の一員としての意識を高めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことを人に分かるように話す ・他の人の意見を最後までしっかり聴く ・人の話をじゃまさない ・決まったことは守る
三 年	学級内の問題に気付き，教師の指導助言のもとに，協力して問題の処理解決ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級内の問題を発見できる ・前もって議題を決める ・話し合いの実施計画を立てる ・司会，記録は子どもにまかせる
四 年	集団の一員としての意識を高め，学級内の諸問題を自分から見つけて，話し合いが実践できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を考えて話す ・分からないときは聞き直す ・友達の意見を取り入れた意見が言える
五 年	よりよい学校生活を目指し，学級内の諸問題を自ら話し合って解決し，計画的に集団生活を営むことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの司会で能率的に進められる ・要点をまとめた素早い記録（メモ） ・進んで意見を発表する ・大切なことはメモしながら聴く
六 年	学級内の諸問題に積極的に取り組み，全体的な立場から実態に即して，建設的・効率的話し合いができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見には理由をつける ・問題から外れないように発言する ・発展的な結論を導き出す ・みんなの意見を尊重した結論を出す

「飯塚小研究発表会紀要(S60)」「やさしく分かる話し合い活動」を参照

(3) 話し合い活動の主な流れ

話し合い活動が行われるまでの主な流れを示しておきます。

① 問題の発見

○学級会が予定されている前の週までに議題を募集します。

② 議題の選定

○学級の実態や行事等を踏まえ、選定する条件に従って、議題を整理し、選定します。

- ・議題選びの条件に沿って選ぶようにします。
- ・計画委員の子どもたちと業間休みや昼休みを使って話し合います。
- ・選ばれなかった議題案は、各提案者に提案カードなどで伝えるようにします。

③ 議題の決定

○整理した議題を知らせ、今週の学級会で話し合う必要のある議題を決めます。

- ・それぞれの議題について、提案理由を明確に計画委員が伝えるようにします。
- ・学級全員が話し合う必要を感じるものを議題とするようにします。

④ 計画の作成と諸準備

○計画委員と提案者で「学級会の活動計画」を作成します。

- ・教師は児童と共に活動計画を立てます。

○学級会の役割分担を確認します。

- ・司会、記録を決め、役割に応じた自分のめあてを決めます。

○提案理由を明確化します。

- ・計画委員と提案者が話し合い、提案理由を明確化します。話し合いのよりどころとなるようにします。
- ・必要に応じて話し合いのめあてをつくり、話し合いの方向性などを明確にします。

○「話し合うこと」(柱)を決めます。

- ・話し合うことの決定では、その活動をするために「話し合うこと」(柱)をすべて挙げ、1単位時間をかけて話し合う価値のある内容を「話し合うこと①」、「話し合うこと②」というように二つ三つ決めます。それ以外のものは、朝の会や帰りの会などで話し合うようにします。

○「議題」や「提案理由」、「話し合うこと」(柱)を学級会ノートにまとめ、配布します。

- ・自分の意見をもって話し合いに参加するために、帰りの会などで学級会ノートに記入することを学級全員に計画委員が伝えるようにします。

○話し合いの全体的なイメージをもてるようにします。

○計画や学級会ノートを基に話し合いを予想して、どうしたらよいかを考えておきます。

「ここは、時間をとって考えよう」

「ここは、質問がたくさん出そうだね」

「ここは、話し合いが止まりそうだな」

「ここは、いろいろな問題が出てまとまらなくなりそうだな」